

熊本地震における災害支援 ナーズの活動について

～訪問看護師としてできること～



公益社団法人徳島県看護協会
訪問看護ステーション阿南
岩佐 久美

活動内容

熊本地震：4月14日発生
4月16日本震

- 活動日
平成28年4月30日～5月2日(3日間)
- 主な支援内容
阿蘇地域の病院における病棟ナースへの支援
4月30日 阿蘇医療センター病棟にて日勤業務
5月 2日 同病院、同病棟にて深夜業務
5月 3日 同病院、同病棟にて深夜明け

* 空き時間にADRO事務局の支援内容・看護職以外の派遣チームの活動内容・宿泊施設周辺の被害状況等の情報収集を行った。

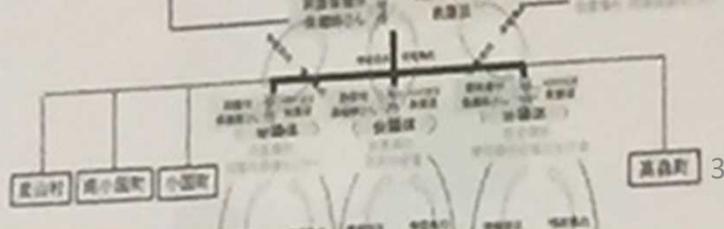
ADRO 救護班活動ポリシー

- ① まずは被災者のために。
- ② 保健師さんを支える活動を。

ADRO
阿蘇地域災害保健医療復興会議

組織・戦略イメージ図

阿蘇地区災害保健医療復興連絡会議
ADRO(アドロ)





阿蘇医療センターの待合室
建物は、耐震・免震構造の為、被害はほとんどない

被災地での言葉

- 被災者の方の心に添った言動を。
- 手伝ってもらえて、いつもより早く帰れるようになった。
- 同じ看護職から、頑張ると声をかけてもらっただけでも力になる。
- 入院患者様に、いつもはできないケアをすることができた。
- 徳島の人とこんなところで会えて、共通の知り合いの話ができた。
- 徳島の人言葉はきつく聞こえるが、元気がいい。
- また、歯磨き手伝って下さいね。
- 近くの町(病院)から支援に来た。1週間同じ病棟で支援している。ほとんど、自分で判断してケアをしている。
- 明るく、飲んで食べて、それも支援。

支援の目的

- ① 被災地で働く看護師への支援
業務の軽減、休日の確保や実務時間の軽減
(災害が起こった時、看護師も被災している)
- ② ケアの充実
出勤できる看護師数が減少

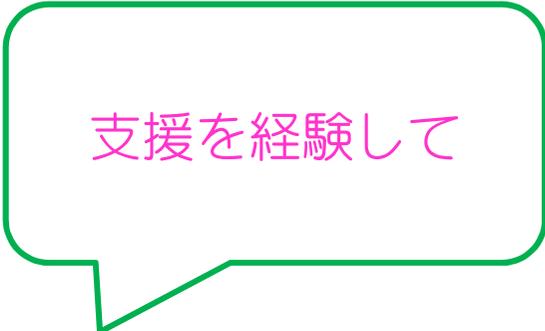


普段通りの心身のケアができない

- ③ 災害時の対応方法を学ぶ
自分たちの地域も災害が起るかも知れない

支援での学び

- ① 被災者のニーズに添った支援
- ② スムーズな情報の共有
- ③ 多職種との協働
- ④ 被災地の方に気を使わせない
不快な思いをさせない
- ⑤ 地域が無理なく継続できる支援
- ⑥ 自分たち地域の被害予測と対応・体制を理解する
- ⑦ 「次は被災地かもしれない」意識を持つ
- ⑧ 地震の備えと、受け入れ体制の準備
- ⑨ 普段から地域とのコミュニケーションを持つ



支援を経験して

我が地域・ステーションの場合

福祉避難所

訪問看護ステーション阿南



避難所
医療救護所指定箇所

その他、
10Km 災害拠点病院
5Km 災害医療支援病院
1Km 障がい者相談支援事業所
二次避難所

我が地域・ステーションの場合

地域との合同防災訓練でコミュニケーション作り

- 平成25年 同じ建物内の事業所
- 平成26年 近所の特別養護老人ホーム
- 平成27年 近所のデイサービス
- 平成28年 隣接する中学校、保育所、デイサービス

地域の介護保険施設の防災訓練に参加



平成25年～

運営委員会に、民生委員と那賀川町在住利用者家族を運営委員に

平成27年～

民生委員への会に出席

平成28年

近所の地域密着型デイサービス（特別養護老人ホーム）に運営委員として参加

課題

- 個々での防災対策しかできていない
- 行政や地域包括との連携不足
- 地域住民との連携不足
- 訪問看護ステーションとして、地域のニーズや特徴に添う支援の確立ができていない

情報を収集する力
共有する力
自分たちは何ができるのか発信する力
柔軟な対応力

地域の特徴を知る
地域のニーズを知る
自分たちを知ってもらう